

## 県立医大病院研修プログラム

新人医師は大学卒業後、臨床研修を2年間受けねばならず、臨床研修マッチング協議会が研修医と病院の希望をふまえて組み合わせる。同病院では平成22年度、定員に占める希望者の割合が76・5％で前年度の63・6％から大幅に増え、病院別で全国9位(前年度21位)に浮上した。和歌山県全体でも22年度は6位で、前年度の13位から改善した。

人気の要因は、県内外の民間病院でも研修できるプログラムの自由度の高さ。同病院では18年度から協力病院を増やしており、現在は県内の公的病院から北海道の町立病院まで23機関と連携。研修医が期間や診療科を自由に選んで学べる。来年度からはりんくう総合医療センター(大阪府)とも双方向で連携する。また、地域医療だけでなく、高度先進医療を学べるのも魅力だ。診断能力を養うER研修を重視。近畿の大病院で唯一、1次から3次救急まで受け入れており、夜間も全23科に当直医がいるなど指導体制も充実している。協力病院の大阪府泉大津市の泉大津市立病院小児科で研修中の平松治代さん(25)は「カリキュラムが決められている病院もあるなか、診療科を回りながら自由に研修先を変えられる。民間の病院で経験を積み、重症者はかりではなく軽症者にも対応できるようにしたい」と話す。今春には、各公立病院の指導体制を強

# 自由度高く 人気上昇

県立医大病院の研修プログラムが人気だ。大学卒業後の臨床研修先に希望する新人医師が増えており、昨年度は定員に占める第1希望者の割合が全国9位だった。同病院によると、研修後県内で働く新人医師は8割以上で、懸念される県内の医師不足解決にも期待がかかる。

(池田美緒)

## 昨年は全国9位 医師不足解決に期待



重視されているERでの研修。熱心に指導医から注意を受ける研修医ら—和歌山市の県立医大

化する地域医療支援センターも設置された。臨床研修後の研修をサポートするとともに、県病院協会なども連携しながら県全体の医療のレベルアップをめざす。卒業後臨床研修センターの上野雅巳センター長は「県内に若手医師を定着させるには、さまざまな指導医と出会う機会を設けることが大切。和歌山全体で研修医を育てる、一つの研修圏にしていきたい」としている。